

【授業実践振り返りカード】 2月

学校名 富士見小学校	1 学年
授業者氏名 山科 美里	
題材名 「パ・タ・カ・ラで早口言葉を作って遊ぼう～口まわりの筋肉を鍛えよう～」(国語)	
主 眼 パタカラ体操の口や舌や喉の動かし方が上手になってきた子どもたちが、同じ音が何度も繰り返されている早口言葉の決まりに着目し、「ぱ・た・か・ら」の文字を用いて早口言葉を作り調子よく正確に唱えることを通して、言葉のおもしろさや豊かさに気づき、口周りの筋肉を鍛えることができる。	
学習材 国語 ことばをたのしもう 「なまむぎ」「あおまきがみ」「かえるひよこひよこ」 お口の体操「ふーふーティッシュ飛ばし」「かおじゃんけん」「したじゃんけん」「パタカラ体操」	
成 果 ① お口のたいそうタイム 「ふーふーティッシュ飛ばし」「かおじゃんけん」「したじゃんけん」「パタカラ体操」 ① 早口言葉のひみつをさぐろう 教科書の早口言葉をゆっくり唱えてみよう ・同じ言葉が繰り返されている！ ・口を開けたり閉じたりなど、口や舌の動きが忙しくなっている！ ② 「ぱ・た・か・ら」の文字を使って早口言葉を作ろう (条件1) 同じ言葉が繰り返されている。→○ 例) <u>ら</u> ーらら <u>ラ</u> ンド <u>ラ</u> ッパ <u>ラ</u> ンドセル <u>ラ</u> ララ (同じラのことが繰り返されて舌を何度もクルンとするから○) ぱたからの中から2つ以上を交互に使うともっと難しくなる。 (条件2) パとタが言ったり来たりして口が忙しい→◎ 例) <u>ぱ</u> っぱ <u>た</u> いやき <u>ぱ</u> そこん <u>た</u> ったた <u>ぱ</u> イナップル <u>た</u> タ ③作ったフレーズで遊ぼう ・調子よくはやく言えるようになりたい ・ゆっくりでも間違えないようになりたい ・友達の作った早口言葉もいえるようになりたい 【留意点】伝えるメッセージ「早く言わなくても <u>言いにくければ 早口言葉になる</u> 」早く言うことだけに価値を求めないように留意する。 ④ ふりかえり 「くちびる・舌・喉の中でどれを一番使って疲れましたか。」 「楽しい、難しい、と思った友達の早口言葉はありますか。」 ぱたからの全ての文字を活用したり、文字数を変えたり、意味のない言葉も混ぜたりし、とても楽しんで作っていた。一人で作る時間から友達に自分の早口言葉を早く伝えたくて仕方ない様子があり、口の動かし方を意識して活発に声を出していた。難しい作品や面白い作品を互いに紹介し合い、上手に言えるには口をしっかり動かさなければいけないことをみんなで確認ができた。	
課 題 ・「お口ぼかん」や「はっきりと話せない」児童が多いと感じる。参観日での作文発表も控えていたので、はっきりと言葉を話すことに着目してほしいと願いこの授業を仕組んだ。口を意識して動かす活動は、隙間時間などを通して継続しないと意味が無いと感じる。	



【授業実践振り返りカード】 2月

学校名 富士見小学校	2 学年
授業者氏名 長田 文彰	
題材名 「歯はどうして形がちがうの？」 学級活動 2 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 エ 食育食習慣の形成（健康の歯）	
主 眼 歯並びに興味をもち、粘土で自分の歯並びを作った際に、どうして奥歯や前歯は形が違うのかという疑問をもった子どもたちが、当日の給食に提供される「炒り豆」「豆腐」は、それぞれの歯や口腔を使って食べるのかを考えることを通して、「奥歯」「前歯」「犬歯」などの歯の役割や形の違いに気づき、それぞれの歯にあった磨き方をすることができる。	
学習材 ・ 前時に作った自分の歯並びの粘土 <奥歯・前歯・犬歯など、歯の種類や形の違い、数など口腔内を学んだもの> ・ 本日出る給食の硬い物と柔らかい物、先日給食で食べた干し柿（思い出し） <食べ比べて、噛む歯や場所が違うことを学ぶためのもの>	
成 果 ・ 粘土で自分の歯を形作ること、いろいろな形の歯があることに疑問をもっている。疑問から追究することによって、 <u>それならば</u> から、 <u>なぜならば</u> にスムーズに展開することができた。 ・ 実食すること（実際に行ってみる）ことで、歯の形の違いには意味があることに気づけることがわかった。 ・ 食材によって噛む歯が違うことを知ったことで、それぞれの歯の磨き方をどうすればいいか、明日からの歯みがきの仕方、心構えを学ぶことができた。 	
課 題 *「ぼく、前歯が使いにくい・・・ほとんど使っていないよ。」という発言をした H 生の意見を広めることができず、子どもの実情から <u>どうしてなんだろう</u> と、考えるチャンスを逃してしまった。ここぞという子どもの発言を拾いたい。	

【授業実践振り返りカード】 2月

学校名 富士見小学校	3 学年
授業者氏名 野田 直美	
題材名 「 ひまわりの種で歯にいいチョコレートを作ろう 」	
主 眼 ひまわりの種を使ったおやつ作りをしてきてチョコレートは歯に良くないと思っている子どもたちが、カカオの高騰により開発されたひまわりの種を使ったチョコレート代替品に着目し、仲間が調べ学習で見つけたレシピをもとにひまわりチョコレートを試作し、カカオを使ったチョコレートと食べ比べて感じたことをチェック表に記入して友だちと伝え合ったり、栄養士の小林先生から食べた感想を聞いたりすることを通して、ひまわりの種を使えば歯にいいチョコレートに似たおやつができることを知り、ひまわりの種をおいしく食べる新たな方法を見つけることができる。	
学習材 ・比較に使うカカオチョコレート(試食用) ・試食結果を記入する5段階チェックシート ①種本来の苦みはないか ②簡単に作れるか ③歯ごたえはあるか ④ひまわりの風味がするか⑤歯の状態(歯にはさまっているところがあったら、赤色で色をつける) ・栄養士の小林先生の感想	
成 果 ・ひまわりチョコレートを作るにあたり、なぜカカオが不足し、ひまわりの種を使った代替品が作られるようになったのか事前に調べ、「カカオショック」と呼ばれる地球規模の課題があることを知った。歯と口の健康に留まらず、地球にも優しいおやつ作りを目指して、試作に取り組むことができた。 ・ひまわりチョコレートには、ひまわりの種100gに対して、虫歯菌が好きではない甘みである「はちみつ」がだじ1～2(約21g)、ココアパウダーがだじ1(約6g)使われている。 ・一般的なカカオチョコレート(板チョコ1枚45g)には、砂糖約 18g～22g(スティックシュガー約 6～7 本分)、カカオ成分(カカオマス+ココアバター)が約 10g～15g 使われている。 →ひまわりチョコレートとカカオチョコレートを食べ比べることで、ひまわりチョコレートの方が、チョコレート感もありながら、ちょうどいい甘みで食べやすいと感じた子どもが多かった。 ひまわりの種を使えば、普通のチョコレートより歯にいいチョコレートに似たおやつができるという新しいものの見方考え方に会うことができた。 ・栄養士の小林先生にも試食した感想を聞き、ひまわりの種、ひまわり油、ココア、はちみつと、全て歯にいい材料で作っていることや、歯にくっつく原因は甘さが大きく関係しているから、甘みが少ないひまわりチョコレートの方が安心であること、甘さが歯茎にしみる人にとっても食べやすい甘さであることを話していただき、自分たちが作ったひまわりチョコレートが歯や口の健康によいものであることを実感することができた。栄養士の先生に入っていただくことで、専門的な立場から、子どもたちの取り組みを見つめ、的確なアドバイスやよさを伝えていただくことができ、非常に有難かった。	
課 題 ・食用ひまわりの種を使っておやつ作りをする際に、種の皮をむくの非常に時間がかかる。試行錯誤をくり返し、徐々に皮をむくのが早くなってきて、30人全員が2時間集中してむくと、1回のおやつ作りに必要な量(約400g分)をむくことができるようになったが、全校や地域にひまわりの種が歯と口の健康に良いことを発信しても、ひまわりの種は一般的にはあまり売られていなかったり、種の皮むきが面倒であったりして、歯と口の健康のために日常的に食べてもらうことへの難しさがある。	

【授業実践振り返りカード】 2月

学校名 富士見小学校	学年 4 学年
授業者氏名 高橋 準	
題材名 「歯と口の大切さを発信しよう！」（総合的な学習の時間）	
主 眼<フォーマット> ○○について学んだ（or 体験した・調査した）子どもたちが（既習や経験）、○○に着目し（健康教育や食育との教科等横断的な学習に係わる見方・考え方）、○○することを通して（本時の中核的な学習活動）、○○する力（育成する資質・能力）を培うことができる。	
主 眼 「歯と口の大切さを富士見小学校や富士見町に発信したい！」と願い、保護者向けに発信するイベントを2学期に行った子どもたちが、3学期のイベントのターゲットである高齢者に合った「歯と口の健康の情報」に着目し、インターネットや生成 AI での調べ学習を通して、情報を読み解き、課題を深く理解することができる。	
学習材 （本時、子どもに提供する最大の情報：実践家や専門家の話の要点・KYT のイラスト等） ・口腔ケアを怠ることで命に関わるリスクが高まることがわかるデータ（高齢者） ・生成 AI に関する注意点	
成 果 ・「命」に関わることを知ったことで、より意欲的に学習する姿があった。 ・「高齢者」という新たな視点で調べたことで、今まで知ることができなかった知識と出会っていた。	
課 題 ・調べたことを理解しないまま活動を進めている様子があった。 ・AI モードで「4年生にわかりやすく」と変換することで、知識を理解しながら学習を進めていけばよかった。	

【授業実践振り返りカード】 2月

学校名 富士見小学校	学年 5 年
授業者氏名 赤堀万里子	
題材名 「災害時のオーラルケアについて考えよう」	
主 眼<フォーマット> ○○について学んだ（or 体験した・調査した）子どもたちが（既習や経験）、○○に着目し（健康教育や食育との教科等横断的な学習に係わる見方・考え方）、○○することを通して（本時の中核的な学習活動）、○○する力（育成する資質・能力）を培うことができる。	
主 眼 保健の授業で、災害時の避難に対する備えを学んだ子どもたちが、避難場所や災害時のオーラルケアについて考える場面で、1 部の友達から聞いたり、インターネットで調べたりすることを通して、自分たちができることを考え、備えに活かすことができる。	
学習材 （本時、子どもに提供する最大の情報：実践家や専門家の話の要点・KYT のイラスト等） 1 部の子どもたちからの情報	
成 果 ・富士見町では登下校時避難訓練を通して、町ぐるみでの防災教育を進めている。第一次避難場所となる公民館での避難生活想像することは難しくなく、どの児童も自分事として考えている姿が見られた。 ・避難所生活では水が自由に使えないことを知り、歯みがきではない方法でのお口の健康保持について興味を持っていた。	
課 題	

【授業実践振り返りカード】 2月

学校名	富士見小学校	学年	6 学年
授業者氏名 山崎 健太郎			
題材名 「自分の健康は自分で守る！ ～体も 脳も 歯も～」			
主 眼<フォーマット> 〇〇について学んだ（or 体験した・調査した）子どもたちが（既習や経験）、〇〇に着目し（健康教育や食育との教科等横断的な学習に係わる見方・考え方）、〇〇することを通して（本時の中核的な学習活動）、〇〇する力（育成する資質・能力）を培うことができる。			
主 眼 12 月に実践した歯っぴーチャレンジカードに自分の歯みがきの様子をまとめ、自分の習慣について客観的に認識した子どもたちが、今の自分の習慣が歯と口の健康を保つことができるものかどうかに着目し、再度歯っぴーチャレンジカードに取り組むことを通して、自分のことを客観的に認識し、よりよい生活習慣につなげようとする実行力を培うことができる。			
学習材 （本時、子どもに提供する最大の情報：実践家や専門家の話の要点・KYT のイラスト等） ・ 前回の歯っぴーチャレンジカード ・ 歯っぴーチャレンジカード			
成 果 子どもの振り返りより ・ 休日の歯みがきは雑になりやすいのが自分の課題だとわかった。 ・ すきまの磨き残しが多いのが自分の特徴だから、そこを意識して磨くことができた。			
課 題 ・ 時間が足りず、十分な振り返りの言葉を共有する時間を確保できなかったため友だちの良い考えを共有することができなかった。学級だより等で発信していきたい。 ・ お家の方の自分の子がどんな歯みがきをしているかについて、関心を誘うことができたが、その意識を継続していくために今後もお便り等を通して発信を続けていく。			